

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名		キャリア教育推進事業				本年度担当課	学校教育課	
						前年度担当課	学校教育課	
政策 体系	基本目標	04 豊かな心を育み、学び合うまちづくり				事業 区分	新規・継続	継続事業
	政策	01 豊かな心と確かな学力を育むまちづくり					実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01 特色ある教育と心の教育の推進					市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	03 小中一貫教育の推進					任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	01	02	キャリア教育推進事業	事業分類	教育・指導事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	令和4年度 ~			
根拠法令・条例等								

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）											
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
児童生徒が企業を訪問したり、企業の社員等が教育支援者として学校訪問をしたりする機会を設け、児童生徒が社会で活躍する魅力的な大人と接することを通して、広い視野から社会や職業を捉える力を養い、一人一人の児童生徒が将来に希望を持ち、自己の生き方や進路について考えることができるようにする。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐野市キャリア教育推進委員会設置要綱の策定、委員の選出</li> <li>・佐野市キャリア教育推進委員会の開催（年2回）</li> <li>・佐野市キャリア教育推進計画全体構想図の作成</li> <li>・教職員対象の研修会の開催</li> </ul>						
					活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					講話・体験活動を実施した学	校		29	24	24	24
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）											
佐野市立小・中・義務教育学校の5・6年児童及び1年・7年生徒					対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					小・中・義務教育学校5・6	人		2,889	2,689	2,689	2,689
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）											
児童生徒が、地域の企業・事業所等の人づくり、物づくりについて学び、自己の将来に希望をもち、生き方や進路について考えることができる。					成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	目標	80	82	84	86
							実績	75.6			
							目標				
④結果（どのような結果に結びつきますか？）											
「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」が身につく。					上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					総合学力調査平均正答率の全国との乖離度	点	目標	0.2	0.4	0.6	0.8
							実績	-2.6			
					新体力テストの平均得点の全国との乖離度	点	目標	1.6	1.7	1.8	1.9
		実績	-0.3								

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	400	0	0	0	
	一般財源	千円	0	△209	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	191	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報償費	130		
					需用費	61		
人件費	職員従事工数	人工	0	2	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	14,574	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	14,765	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	キャリア教育推進事業	本年度担当課	学校教育課
		前年度担当課	学校教育課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	1人1人の児童生徒が将来に希望をもち、生き方や進路について考えることができるよう、社会で活躍する魅力的な大人に接する機会を設け、職業教育を中心にキャリア教育を推進する必要性が高まったため。新学習指導要領でも、キャリア教育の充実が明示されている
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	地元である本市への定住化を促す意味としても、キャリア教育の推進を図ることが求められている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	市長からキャリア教育推進について、市として力を入れていきたいという話があった。すでに学校訪問や出前授業を行っている学校もあるので、全小・中・義務教育学校でも実施したい。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名	小中一貫教育推進事業				本年度担当課	学校教育課		
					前年度担当課	学校教育課		
政策体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			事業区分	新規・継続	継続事業
	政策	01	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	特色ある教育と心の教育の推進				市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	03	小中一貫教育の推進				任意・義務	任意の事業
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	10	01	02	小中一貫教育推進事業			
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	平成25年度 ~				
根拠法令・条例等								

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
小中一貫教育の推進を支援する事業 中学校区を基本とする小中一貫教育推進ブロック及び義務教育学校における小中一貫教育の推進を支援する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育指導員による学校訪問 (学習指導等への指導助言)</li> <li>オンラインによる児童生徒の交流</li> <li>小学校を会場とした進学説明会・出前授業</li> <li>地域の人材を生かしたキャリア教育の推進</li> <li>異学年児童生徒の交流</li> </ul>						
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
		学校教育指導員による学校訪	校		43	32	32	32		
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
佐野市立小・中・義務教育学校				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				佐野市立学校数	校	29	29	24	24	24
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
<ul style="list-style-type: none"> <li>9年間の継続した系統的な学習指導を行うことで、児童生徒の学習習慣の確立や確かな学力の定着を図る学校。</li> <li>小・中学校教員が協働して、9年間を見通した継続性のある指導を行うことにより、児童生徒の不安感が軽減され、児童・生徒指導上の諸問題が</li> </ul>				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				小中一貫教育を推進している学校の割合	%	目標 100	100	100	100	100
						実績 100	100			
						目標				
						実績				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
小中一貫教育を通して、学力向上・体力向上・豊かな心の育成を図る。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				教科の接続等の連携をしている小学校の割合	%	目標 93	94	95	96	97
						実績 95.2	85.7			
						目標				
						実績				

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	5	10	0	0	0	
	一般財源	千円	1,976	1,953	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	1,981	1,963	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報酬	1,405		
					職員手当等	281		
				共済費	276			
人件費	職員従事工数	人工	0	2	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	14,574	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,981	16,537	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	小中一貫教育推進事業	本年度担当課	学校教育課
		前年度担当課	学校教育課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	児童生徒の学力・学習の状況、体力等から見られる課題、「中1ギャップ」などの課題、さらには、少子化による学校規模の小規模化に関連する様々な課題への対応として、平成25年度開始。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	本市における小中学校の適正配置推進計画等の検討なども始まった。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	小中一貫教育は、義務教育9年間の連続した学びの中で、本市の児童生徒に確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を図る教育を充実させるために有効であるとの意見があった。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
		大	中	小	成果向上余地